

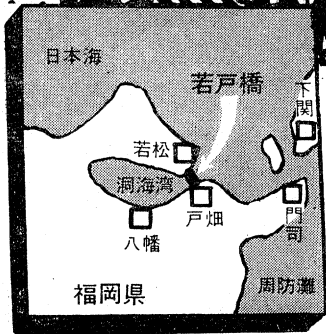
トンネルと掘削工法の訂正表について

初版は品切れとなり目下再版を準備中です。再版に当り各著者より訂正および追加の御申出がありましたので、全部訂正して出版します。初版を購入された方はお手数ですが、本訂正表によりお手許の本を御訂正願います。会員外で購入された方も学会へお申出下されれば別刷をお送りします。

なおスペースの節約を図るためできるだけ圧縮して登載いたしますから御諒承下さい。

ページ	行	訂正																																																													
4	上・3	異なっているため、大断面方式が一概に ストーパーでは 25.4 mm 木ノ芽を北陸に直し各データ次のように追加																																																													
〃	下・8																																																														
5	表-3																																																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>トンネル名</th> <th>地質</th> <th>進(行) (m)</th> <th>孔数 (本)</th> <th>切羽 1m² 当り 孔数</th> <th>心抜方法</th> <th>孔 深</th> <th>孔深/切羽巾×100</th> <th>使用火薬量 (kg/m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北 陸</td> <td>粘板岩 砂カウ岩</td> <td>1.2~1.5</td> <td>100~157</td> <td>1.4~2.3</td> <td>ピラミッド</td> <td>1.2 ~ 1.5</td> <td>13 ~ 17</td> <td>1.0 ~ 1.3</td> </tr> </tbody> </table>			トンネル名	地質	進(行) (m)	孔数 (本)	切羽 1m ² 当り 孔数	心抜方法	孔 深	孔深/切羽巾×100	使用火薬量 (kg/m ²)	北 陸	粘板岩 砂カウ岩	1.2~1.5	100~157	1.4~2.3	ピラミッド	1.2 ~ 1.5	13 ~ 17	1.0 ~ 1.3																																											
トンネル名	地質	進(行) (m)	孔数 (本)	切羽 1m ² 当り 孔数	心抜方法	孔 深	孔深/切羽巾×100	使用火薬量 (kg/m ²)																																																							
北 陸	粘板岩 砂カウ岩	1.2~1.5	100~157	1.4~2.3	ピラミッド	1.2 ~ 1.5	13 ~ 17	1.0 ~ 1.3																																																							
10	下・25	<p>合わせた部分に滑動 たがって大きな 施工するまで放置 トンネルでは</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>トンネル名</td> <td>ズリ積機 公称能力</td> </tr> <tr> <td>俱利加羅</td> <td>大空 600, 12~15 m³/h アイムコ 40 H, 100~160 m³/h</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>トンネル名</th> <th>平均ズリ積時間</th> <th>実際(1台)ズリ積能力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Stornorrfors</td> <td>12.5</td> <td>131</td> </tr> </tbody> </table> <p>図-20, 21 は復線用のもの る(図-5参照)。 一般地質調査・航空写真の利用の項; 路線選定・地質概要○を◎に訂正 特殊地質調査の最後に音波探査を追加し, 海底トンネル計画・断層に◎を追加 トンネルの巾 B の 40% (0.4 B) 以上 最少心要と見られ 蒲山久夫 最大需要電力=.....=281.4 kW</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">製作所 米国インガースル</th> </tr> <tr> <th>型式</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型式</td> <td>D 505</td> <td>DB 35</td> </tr> <tr> <td>ブロー数 (回/min)</td> <td>1750</td> <td>1750</td> </tr> <tr> <td>回転数 (回/min)</td> <td>44</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>機長 (本体のみ) (mm) しセルつき</td> <td>1420</td> <td>1470</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">製作所 米国インガースル</th> </tr> <tr> <th>型式</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型式</td> <td>J-30A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>シリンダー径 (mm)</td> <td>59</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ストローク (mm)</td> <td>914</td> <td></td> </tr> <tr> <td>重量 (kg)</td> <td>18.3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">製作所</th> </tr> <tr> <th>アイムコ</th> <th>アイムコ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型式</td> <td>630</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>走行速度 km/h</td> <td>0~3.2</td> <td>高 0~8.0 低 0~3.2</td> </tr> <tr> <td>積込能力 m³/min (サイクル時間 sec)</td> <td>1~2 (15~20)</td> <td>4~7 (15~20)</td> </tr> <tr> <td>動力 HP×数</td> <td>空気 12×3 電気 15×3</td> <td>ディーゼル 134 電気 100</td> </tr> </tbody> </table>	トンネル名	ズリ積機 公称能力	俱利加羅	大空 600, 12~15 m ³ /h アイムコ 40 H, 100~160 m ³ /h	トンネル名	平均ズリ積時間	実際(1台)ズリ積能力	Stornorrfors	12.5	131	項目	製作所 米国インガースル		型式		型式	D 505	DB 35	ブロー数 (回/min)	1750	1750	回転数 (回/min)	44	44	機長 (本体のみ) (mm) しセルつき	1420	1470	項目	製作所 米国インガースル		型式		型式	J-30A		シリンダー径 (mm)	59		ストローク (mm)	914		重量 (kg)	18.3		項目	製作所		アイムコ	アイムコ	型式	630	105	走行速度 km/h	0~3.2	高 0~8.0 低 0~3.2	積込能力 m ³ /min (サイクル時間 sec)	1~2 (15~20)	4~7 (15~20)	動力 HP×数	空気 12×3 電気 15×3	ディーゼル 134 電気 100
トンネル名	ズリ積機 公称能力																																																														
俱利加羅	大空 600, 12~15 m ³ /h アイムコ 40 H, 100~160 m ³ /h																																																														
トンネル名	平均ズリ積時間		実際(1台)ズリ積能力																																																												
Stornorrfors	12.5		131																																																												
項目	製作所 米国インガースル																																																														
	型式																																																														
型式	D 505		DB 35																																																												
ブロー数 (回/min)	1750		1750																																																												
回転数 (回/min)	44		44																																																												
機長 (本体のみ) (mm) しセルつき	1420		1470																																																												
項目	製作所 米国インガースル																																																														
	型式																																																														
型式	J-30A																																																														
シリンダー径 (mm)	59																																																														
ストローク (mm)	914																																																														
重量 (kg)	18.3																																																														
項目	製作所																																																														
	アイムコ	アイムコ																																																													
型式	630	105																																																													
走行速度 km/h	0~3.2	高 0~8.0 低 0~3.2																																																													
積込能力 m ³ /min (サイクル時間 sec)	1~2 (15~20)	4~7 (15~20)																																																													
動力 HP×数	空気 12×3 電気 15×3	ディーゼル 134 電気 100																																																													
11	下・18																																																														
〃	下・12																																																														
〃	下・4																																																														
13	表-5																																																														
〃	〃																																																														
〃	〃																																																														
14	下・2																																																														
28	上・15																																																														
46	表-4																																																														
57	上・14~15																																																														
63	上・22																																																														
76	文献の ^{7), 11)}																																																														
85	下・17																																																														
86	表-6																																																														
89	表-7(2)																																																														
105	表-20																																																														
108	図-49, 50	<p>両方の写真のみ入れかえる Junior Challenger Drill DH-123 J を CM に訂正 CM の項の大きさを全長 2.08 m, 全巾 2.08 m に訂正, 走向を 0~6.4 km/h に訂正 説明をもって満足し ダム サイト別あるいは地域別の上から5を黒四欄に訂正 対する%は小円の中心 探査してこれを填充する の湧水は, 軽位面中に限られ 爆薬の総量 N35^W/84 W および 型式・堤体積 (m³) 作用水頭の項・81を取水口水路の位置にあげ104の間に矢印を入れる (81→104) 11000 円程度であった。 最近の発電所 とし写真を90°回転(短かい辺を底辺)する 1818年 Marc Isambard</p>																																																													
156	上・15)																																																														
158	写真-2)																																																														
160	表-4(1)																																																														
177	表-4(3)																																																														
178	下・12																																																														
183	表-1																																																														
188	下・13																																																														
190	上・12																																																														
193	下・14																																																														
200	上・27																																																														
216	上・11																																																														
326	2・1																																																														
327	2・2																																																														
336	上・4																																																														
	写真-10																																																														
	写真-11																																																														
	下・16																																																														

夢のかけ橋



近年、国土開発の動脈ともいふべき優良道路の建設がいそがれていますが、海にかこまれ、河川の多いわが国では、この国道の発展とともに、大型・軽量・堅牢な橋梁が最も要求されています。

このたび北九州工業地帯の要衝の地、若松市と戸畑市を結ぶ洞海湾に、東洋一の規模といわれる吊橋「若戸橋」が架けられることになりました。

日立造船は、この建設工事の中核となる橋塔と中間橋脚の製作・架設工事をひきうけます。創業以来、各種の道路橋・鉄道橋を建設してきた専門メーカーとしての豊富な経験と斬新な技術・設備が生かされるわけです。

—— 当社の施工する鋼材重量 ——

戸	側	橋	塔	1,900ト
畑	側	橋	塔	1,900"
若	側	中間橋脚		300"
松	側			300"
若	側			300"
松	側			300"
若	側	計		4,400"



日立造船

創業1881年

本社 大阪市北区中之島2丁目25
電話 大阪(23)8-051-9
東京支社 東京都千代田区丸の内2丁目20の1
電話 東京(28)5-231-9